

第三節 京築地域の縄文文化

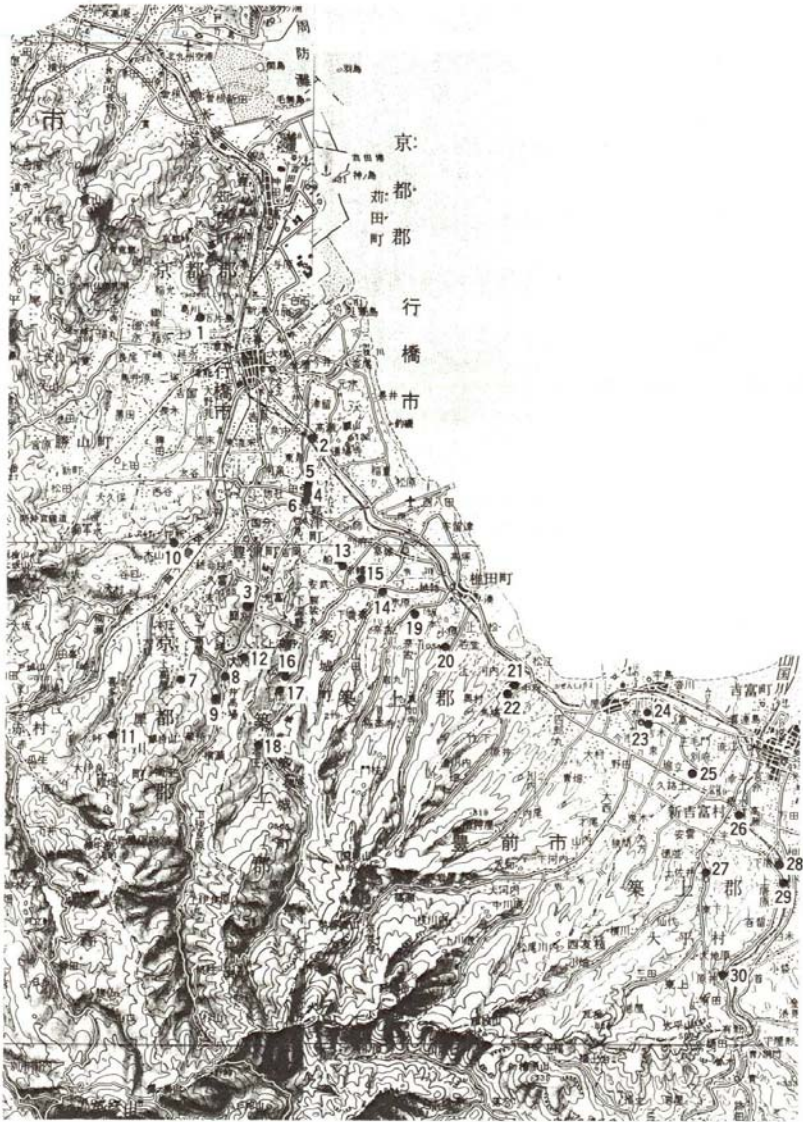
一 各時期の遺跡

当地域では縄文時代の遺跡のうち、草創期に属する遺跡はまだ確認されていないが、その後の各時期の遺跡はここ数年の発掘調査などによって三〇か所以上発見されている（第16図参照）。

早期

京築管内の早期の遺跡としては、第3表に示すとおり一三か所前後が確認されているが、大部分は遺物の採集にとどまり、遺構が検出されたものは少ない。豊前市吉木遺跡は現在の海岸線より約三キロメートル南に入った標高約一二メートルの平野部に位置する。五か所のピット群から押型文土器・無文土器・条痕文土器が出土している（第17図）。押型文土器には山形文・格子目文・楕円文があり、大分県稲荷山遺跡で特徴的な稲荷山式土器に類似している。この型式は大分県川原田洞穴Ⅷ層の放射性炭素による測定で約八八五〇年前の年代が得られている。

これ以外に早期の遺物を出土した遺跡としては、行橋市畠田・長通遺跡、豊津町徳永川ノ上遺跡、犀川町自在丸遺跡、清四郎遺跡、五反田遺跡、寺門遺跡、本庄遺跡、椎田町山崎・石町遺跡、小原岩陰遺跡、豊前市小石原泉遺跡、大平村土佐井遺跡などがある。



第16図 京築地域の縄文時代主要遺跡分布図

第2章 縄文時代

第3表 京築地域の縄文時代の主要遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	時期	備考
1	浄土院遺跡	京都府苅田町大字片島	後期～晩期	
2	畠田・長通遺跡	行橋市大字辻垣	早期、後期～晩期	
3	節丸西遺跡	京都府豊津町大字節丸	後期	住居跡24軒他
4	徳永川ノ上遺跡	京都府豊津町大字徳永	早期、後期	落とし穴状遺構41基他
5	鋤先遺跡	京都府豊津町大字徳永		落とし穴状遺構8基
6	神手遺跡	京都府豊津町大字徳永	後期～晩期	落とし穴状遺構5基
7	自在丸遺跡	京都府犀川町大字上高屋	早～前期、晩期	
8	タカデ遺跡	京都府犀川町大字木井馬場	晩期	集落跡？
9	寺門遺跡	京都府犀川町大字木井馬場	早期、後期～晩期	集落跡？
10	草場遺跡	京都府犀川町大字花熊		集落跡？
11	清四郎遺跡	京都府犀川町大字喜多良	早期、後期～晩期	集落跡？
12	五反田遺跡	京都府犀川町大字犬丸	早期、後期～晩期	住居跡1軒他
13	安武・土井の内遺跡	築上郡築城町大字安武		落とし穴状遺構23基
14	広末・安永遺跡	築上郡築城町大字広末		落とし穴状遺構6基
15	十双遺跡	築上郡築城町大字赤幡・広末	後期～晩期	住居跡1軒他
16	松丸遺跡	築上郡築城町大字松丸	前期、後～晩期	住居跡1軒他
17	伝法寺遺跡	築上郡築城町大字伝法寺	後期～晩期	集落跡？
18	本庄遺跡	築上郡築城町大字本庄	早期	
19	山崎・石町遺跡	築上郡椎田町大字越路	早期、後～晩期	住居跡11軒他
20	小原岩陰遺跡	築上郡椎田町大字小原	早～前期、後～晩期	
21	中村石丸遺跡	豊前市大字中村	後期	住居跡10軒他
22	団後遺跡	豊前市大字中村	晩期	住居跡2軒
23	吉木遺跡	豊前市大字吉木	早期	集落跡？
24	吉木常末遺跡	豊前市大字吉木	早期	石器出土
25	小石原泉遺跡	豊前市大字六郎・小石原	早～前期、後～晩期	集落跡
26	垂水遺跡	築上郡新吉富村大字垂水	早期、後期	
27	土佐井遺跡	築上郡大平村大字土佐井	早期～晩期	住居跡5軒
28	川下遺跡	築上郡大平村大字下唐原	晩期	
29	上唐原遺跡	築上郡大平村大字上唐原	後期	住居跡2軒他
30	原井三ツ江遺跡	築上郡大平村大字原井	後期～晩期	住居跡1軒他

前期

前期に属する遺跡は非常に少なく、しかも遺物も若干の出土にとどまっている。

椎田町小原岩陰遺跡、大平村土佐井遺跡では、ともに前半の轟B式土器と後半の曾畑式土器が出土している。また、犀川町自在丸遺跡と築城町松丸遺跡では轟B式土器が、豊前市小石原泉遺跡では曾畑式土器が出土している。

中期

京築地域では、中期の土器が出土する遺跡は特に少なく、大平村土佐井遺跡

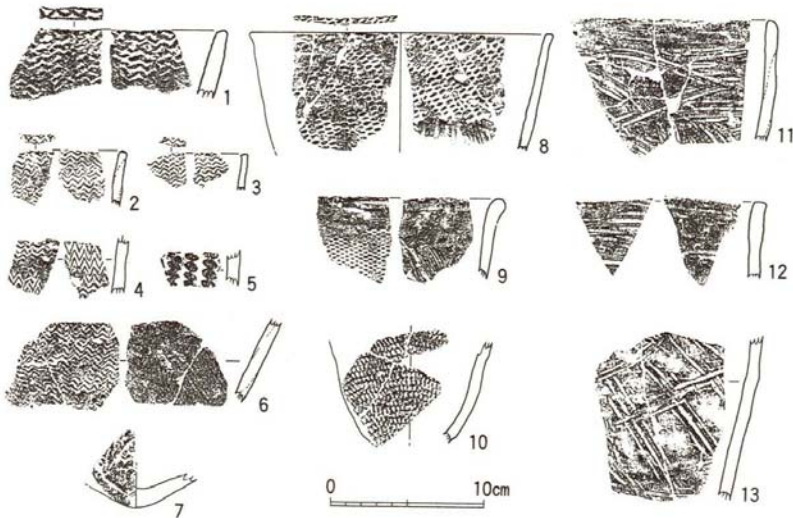
で前半の並木式土器の小片がわずかにみられるのみである。

後期

当地域の縄文時代で、最も数多くの遺跡が発見されているのが後期である。

特に近年になって集落跡の調査が進み、遺物も多量に出土している。

苅田町浄土院遺跡は古く昭和三十一年（一九五六）と四十七年に調査され、西平式土器を使用した甕棺墓



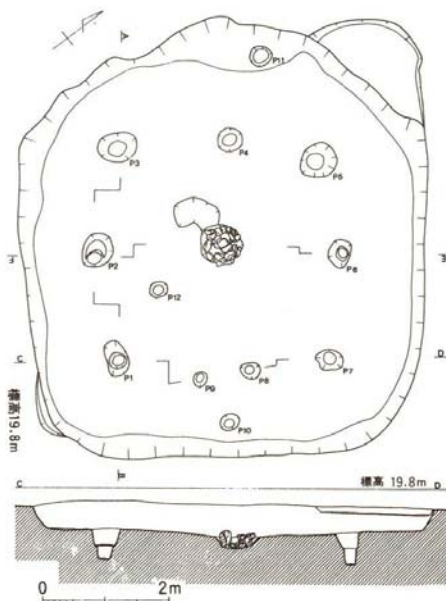
第17図 豊前市吉木遺跡出土土器実測図

が発見され、内部から成人女性の火葬人骨が出土した。この時期の埋葬方法を考えるうえで重要な遺跡となっている。築城町では松丸D遺跡で甕棺墓が四基発掘されている。いずれも深鉢形土器を使用したもので、うち二基は埋葬時にあらかじめ土器の底部を取り除いていた。

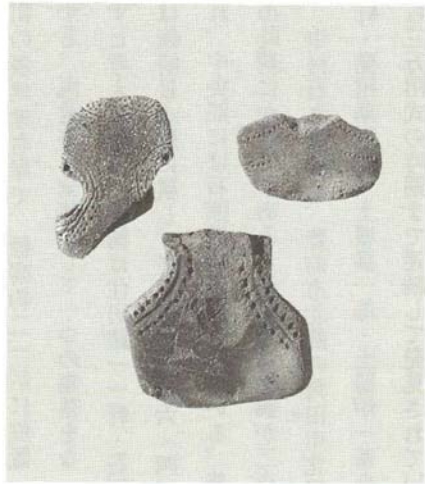
山崎・石町遺跡は椎田町大字越路こいじの岩丸川の扇状地右岸で、標高約二二メートルに位置する。両遺跡は全体として一つの集落をな

すと考えられる。遺構は住居跡一軒・石囲炉一基・甕棺墓三基が発見されている。7号住居跡(第18図)は鐘崎Ⅲ式期に属し、平面形が一辺六・四メートルの隅丸方形をなし、柱穴は周壁に並行して方形に八本検出され、中央部には石囲炉が設置されている。集落が営まれたのは後期前葉の小池原上層式から後葉の三万田式の時期にかけてである。遺物では土偶が二点出土している。

中村石丸遺跡は、豊前市北部の角田川すだ北岸の標高一二メートルの平地に位置する。主な遺構は竪穴住居跡一〇軒・甕棺墓四基・土壙墓一基・土器炉一基などである。住居跡は山崎・石町遺跡と同様に、小池原上層式から三万田式の時期まで連続して発見されている。遺物では異形の台付き鉢や石製の玦状耳飾りが注目される。



第18図 椎田町山崎遺跡7号住居跡実測図



第19図 大平村土佐井遺跡出土土偶

土佐井遺跡は、大平村北部の東友枝川の左岸段丘に位置し、標高四五・五メートル前後である。検出された主な遺構は住居跡五軒と溝一条である。遺物としては、二点の土偶が注目される(第19図)。

原井三ツ江遺跡は、大平村南部の山国川中流左岸の狭い平地にあり、標高は四二メートル程度である。小範囲の調査で住居跡一軒と溝二条が確認されている。住居跡内から西平一式土器・三万田I式土器とともに土偶が三点出土している。

そのほかの京築地域の遺跡としては、行橋市畠田・長通遺跡、豊津町節丸西遺跡、徳永川ノ上遺跡、神手遺跡、犀川町寺門遺跡、清四郎遺跡、五反田遺跡、築城町十双遺跡、伝法寺遺跡、椎田町小原岩陰遺跡、豊前市小石原泉遺跡、新吉富村垂水遺跡、大平村上唐原遺跡などがある。

晩 期

この時期の遺跡は後期から連続するものが多いが、具体的な遺構が確認された例は少ない。タカデ遺跡は、犀川町北部の祓川中流右岸の沖積地に所在する遺跡で、標高は八四メートル前後である。方形の平面形をなす住居跡の周辺から晩期の土器片などが出土している。

築城町十双遺跡では、長さ五・〇メートル、幅四・〇メートルの楕円形に近い竪穴住居跡が確認され、壁際から屋内戸とみられる焼土壙が検出された。また、土壙墓の可能性がある長さ一三〇センチ、幅七七センチの土壙も発

見されている。築城町松丸D遺跡でも、直径五・一―五・六メートルの円形の住居跡が発見され、中央部には炉跡が検出された。遺物は晩期中葉の土器片と姫島産黒曜石の石鏃と結晶片岩製打製石斧片が出土している。椎田町山崎・石町遺跡では、晩期初頭ないし前半ごろの甕棺墓が二基以上発見されている。団後遺跡は、豊前市北部の角田川右岸に位置し、標高は二五メートル前後である。晩期の遺構は住居跡二軒が発見され、そのうち3号竪穴住居跡は楕円形に近い平面形をなし、土器とともに姫島産黒曜石の石鏃や石皿・作業台・石斧などが出土した。時期は中葉に属する。

これらのほかに、苅田町浄土院遺跡、行橋市畠田・長通遺跡、豊津町神手遺跡、犀川町自在丸遺跡、寺門遺跡、清四郎遺跡、五反田遺跡、築城町伝法寺遺跡、椎田町小原岩陰遺跡、豊前市小石原泉遺跡、大平村土佐井遺跡、川下遺跡、原井三ツ江遺跡などでこの時期の遺物が出土している。

二 集落と墓地

集落と住居

京築地域の縄文時代の遺跡のうち、竪穴住居跡が確認された遺跡は、後期と晩期に限られている。なお、後期については、近年集落単位の確認例が増加している。

集落の立地環境についてみると、豊津町節丸西遺跡、椎田町山崎・石町遺跡、豊前市中村石丸遺跡、大平村土佐井遺跡のように、中小河川の自然堤防上ないし後背地に立地し、その背後には低丘陵が延びる共通性をもっている。この時期、沖積平野はまだ形成されておらず、集落を営む十分な平坦地が少ないため、水や